

## プレスリリース

### アフリカが遺伝子組換え作物導入の進展をリード、2019年の栽培国数は2倍に (ISAAA 報告)

即時配信

プレス窓口: Dr. Rhodora Romero-Aldemita

2020年11月30日

knowledge.center@isaaa.org

- 2019年は合計29カ国が遺伝子組換え作物を栽培
- アフリカでは、2019年の遺伝子組換え作物の栽培国数が3カ国から6カ国に倍増
- 上位5カ国における遺伝子組換え作物の高い普及率が、世界19億5000万人に影響
- ベトナム、フィリピン、コロンビアで二桁の成長率を記録

**2020年11月30日 ケニア ナイロビ** –アフリカでは2019年に遺伝子組換え作物を導入した国の数が倍増しており、世界の地域の中でも遺伝子組換え作物導入の進展をリードしている。国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) が本日、ナイロビからウェビナーを通じて発表した最新報告書『遺伝子組換え (GM) 作物商業化の世界動向: 2019年 (*Global Status of Commercialized Biotech/GM Crops in 2019*)』 (ISAAA Brief 55) より。

アフリカは、この地域の貧困と栄養不良に関連する計り知れない問題を抱えているため、遺伝子組換え作物の導入から恩恵を受ける可能性が最も高い地域とされてきた。2018年に遺伝子組換え作物を導入した南アフリカ、スーダン、エスワティニに加え、さらに3カ国 (マラウイ、ナイジェリア、エチオピア) が2019年に遺伝子組換え作物の恩恵を受けることになった。また、ケニアは2019年末に遺伝子組換えワタの商業化を発表し、2020年に植え付けを開始した。これらの動向とは別に、モザンビークやニジェール、ガーナ、ルワンダ、ザンビアでは、遺伝子組換え作物の研究、規制及び受容において大きな進展が見られた。

アフリカの3カ国が加わったことで、遺伝子組換え作物の栽培国数は2018年の26カ国から2019年は29カ国へ増加した。遺伝子組換え作物の栽培面積が最も広い上位5カ国は、米国、ブラジル、アルゼンチン、カナダ、そしてインドであった。これらの国において主要な遺伝子組換え作物が高い普及率で栽培されていることにより、2019年には約19億5000万人、すなわち世界の26%の人々がバイオテクノロジーの恩恵を享受した。

2019年には29カ国で合計1億9,040万ヘクタールの遺伝子組換え作物が栽培され、食糧安全保障、持続可能性、気候変動の緩和、そして最大1,700万人にもなる世界中の遺伝子組

換え作物栽培農家とその家族の生活の向上に大きく貢献している。発展途上国、特にベトナム、フィリピン、コロンビアでは、遺伝子組換え作物の栽培面積において二桁の成長率が記録された。

「The Green Revolution (緑の革命) 時は、生産性の飛躍的な向上は機械化や化学農薬・化学肥料の使用により成し遂げられたが、この the Doubly Green Revolution (新・緑の革命) の時代には、バイオテクノロジーが農場をより生産的で収益性の高いものにするために漸進的な役割を果たしている。大規模なアグリビジネスが小規模農家を巻き込む傾向には懐疑的な見方が多く、批判的な見方さえもあるが、小規模農家の生産性が飛躍的に向上する可能性を秘めていることには明るい兆しがある」と、ISAAA 理事長 Paul S. Teng 博士は述べている。

アフリカの多くの農業生産者がバイオテクノロジーに対する認識と評価を高めており、特にケニアの農業を牽引する生産者たちは、2020 年に Bt ワタの植え付けが開始されたことで収益性の高いワタ栽培が再開できることに新たな希望を示している。ケニア西部のワタ栽培農家である Francis Apailo 氏は、「Bt ワタは私に家族を養い、子どもたちの将来を守るためのまたとない機会を与えてくれます」と述べている。この技術に対する認識が高まるにつれ、アフリカの農業生産者が、家族さらには大陸全体にも影響を与える遺伝子組換え作物を導入することが期待される。

*国際アグリバイオ事業団 (International Service for the Acquisition of Agri-biotech Applications : ISAAA) は、知識を共有するプログラムと独自のバイオテクノロジー応用技術の移転に関するサポートを通じて、様々なステークホルダー、特に発展途上国の資源に恵まれない農業生産者と、作物バイオテクノロジーの恩恵を共有している国際的な非営利団体である。ISAAA の世界的な知識共有のネットワークと研究開発におけるパートナーシップを通じて、科学的根拠にもとづいた情報を提供することで、人々がバイオテクノロジーの受容と利用に関する十分な情報に基づいた意思決定を行うことを可能にしている。*

**(日本語訳: バイテク情報普及会)**